

滑稽新聞社  
〒444-0103 愛知県額田郡幸田町  
大字大草字称宜屋敷(神津)63-1  
下柳がななくま滑稽新聞社、の号  
第340号 創刊 1990年7月28日  
Email: kokkei1949@yahoo.co.jp

# 滑稽新聞

・ヒトは、一人ご生きていると「ヒト」・ヒトは、人の間で生きていくと「人間」・他人と競い合っている間は「人間」・自分が勝つと嬉しく、自分が負けると悔しい、自分も嬉しい、自分が悔しいのが「人間」

小椋正観著  
ありがとうの神様

## 編集長冥利 読者からの祝意

創刊30年を迎えて、多くの読者から祝意と頂上感謝にたえまません。お祝いのメッセージが届くたびに嬉し〜せ有難さがこみ上げます。今回、節目の記念にフレーム切手を制作しお送りし、祈り以上の反響があった。この切手は使えらるんぞすか？この切手の上に本物の切手を貼るんぞすか？お祈り〜ありがとう印刷機まで届けてしまっただんぞすか？等々。こんなことばごうるんだと知って買ったのは良かったわ〜。と副編集長の感想。長いお付き合いをされている読者の中で、御殿場の輝代さんから頂いた手作り記念品は殊の外感動的でした(写真参照)。当該発刊時、彼女は自費出版の本を出した。普通の家庭の主婦が本を書くなんて尋常ではないが、日本が一番多い「昭和24年生まれ」の同胞として大いに共感できる大筆な読者だ。下り坂ではなく、さらに上り坂へ向かう回すには「乾杯」と謳っているこの本の巻頭語に、40年、50年と続けて下さい」と添えられた言葉は心のサプリメントになる。



滑稽新聞を綴った机の上

## 本を読む・聴く・学ぶ

デジタルとネットの時代になたが本は大事にしたい。「幸せの青い鳥」を41人の禅僧たちが、自らの体験をもとに書き綴ったエッセイ集。坊さんも悩み失敗もする。様々な経験や気づきの紹介の中で我が音叉が振動したのが、直心は道場。の語。人は自己顕示欲にかられ、つい大ボラを吹いたり嘘を言ったり。しかし後で悔む。結局正直に生きることが一番で、幸せの根本はという所に行き着いた。良かったわ〜この坊さん、ここに辿り着ける。

### 西田文郎の「アホ会」の話が良い。5月5日、ジーゴの教え。

たとえ何回踏いても次は出来る、自分口出来る」と言う錯覚がず〜と続かない限り成功者にはならない。常識で考えれば99%無理だと思われ、不可能なことはない。〜と思ってる、ただの「アホ」なんです。アホの定義は「不可能なことはない」と思っていること、人と音ばり事が大好きなこと。

### ステキな本と出会うコツ

ラジオで聴かせて貰った。父親から引き継いだ小さな書店が、今キラリと光っているのか、苦しさにもがいていた時、星野富弘さんの「愛、深き淵より」を読んで救われた。本への力を信じるようになったと語る。ユーミンのコンサートに行くと、「ライブ」の力・魅力を体感。書店で作家と会える「作者と読者の集い」を聞いている。未来客が求めている「読みたい本」と一緒に探そう。本は生きているカラダを養える。本と人とのつながりが、起る奇跡のために、この助けたいと言った彼女の背後には、この本が「神様」が。



40年、50年と続けて下さい」と添えられた言葉は心のサプリメントになる。

### カフェトーク

二村知子さん (書店主)

「ありがとうの神様」が、

# 思い出配達人

工場で廃材となったロール紙の芯を切断し、新聞の切り抜きを貼るとペン立てに。中日新聞の地方版記事を中心に、これを作っているのが会社の先輩の山中さん。杉浦さん、幸田町の配達係様かます。」と言われ、もう何年もやっている。一般市民は自分のことが新聞に載るなんて滅多にない。それだけでも嬉しいのに、ペン立てに仕上げて贈られると正に「思い出」の品となる。

手渡しする時の相手の笑顔が何とも言えず良い。今回は配達人に「後美が戻った。聞きたら花屋さんにお届けしたら。店長さんが美人だった。美人に弱い編集長はご満悦。幸田町内にたくさんの「思い出」と配達して来たが、この言いつ事をあるから止められない。

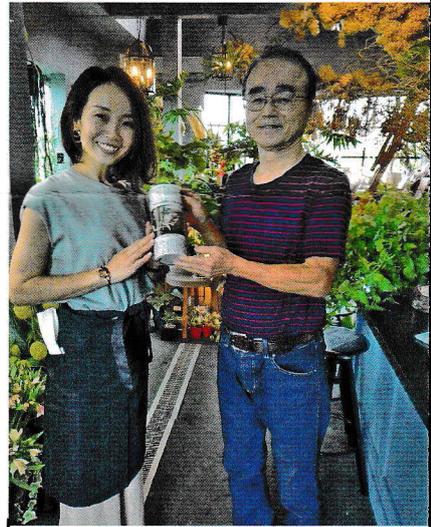
# 吾朗さんのエモアセス

家系藤吾朗さんを知って置かうと、級友の良さんと酒肴を誘って行った。個性的で存在感の漂う地元の画



「らくがき富土」S100号 '84年作

びんくり鑑賞して琴線に触れたのが上の絵。当時の出来事や世相が絵の中に一杯散りばめられている。ある子はここぞ遊ばない「北京大魔術団(パンダごっこ)コアラの大サカス」「イラン直輸入ホメイニ石油」「清酒自南ごっこ」舌良菊等々。こう言うパロディ大好き。



思い出一杯の各知の立と

# 9月20日の部落放送

「こちらは広報こうたです。6時になりました。小中学生の皆さんは、早く家に帰りましょう。毎日、町内各所のスピーカーから流れる。9月20日は祝日。今日は敬老の日。外を歩いているご老人は早く家に帰ろう。行き先が分からぬ老人を見かけたら声をかけて名前や家族の事を尋ねてあげて下さい。広報こうたからのお願いです。」こんな放送許されるのはいいか? 一年に一回の敬老の日なので。

# 発汗雑感

トタン屋根の上にボットン。ユロコロと落ちる。収穫は天の仁事。料理は妻の仁事。秋の味覚を覚へむ。近所の美智子さんが孫を連れて現場体験にやってきました。モンブランの凍を少しは分めたかな? ▼ジョーフサロに投稿された吾永ご百合さんの作品が傑作だった。これ本物の大根だそう刀。キャプションには「大きな大根の葉



真も面白かった。足からずくと垂れ下っている。当サロには「言葉めそび」が中心だが、時々写真やマンガイラストなどを秀逸な作品が登場し、目と鼻がよせてくれる。▼読者の四元さんが送ってく



子供には実地体験が大切

れた焼酎に、鹿児島大学と共同開発」と言われていた。もしかしたら? と思っただけでみたら予想の中。鹿大で副学長まで勤められた竹田靖史さんは親戚の助力で、長年焼酎や発酵の研究とこれ、大学に「焼酎学」と言う分野を拓いてしまっただけ道の権威、いや、思いがけない所で、フな感じで、薩摩や一遍に近くなつた。

